

ステップ1

オプティクリーンポリマー

ご利用前のご確認



被膜式光学クリーナー「オプティクリーン」をご購入いただき誠にありがとうございます。本書をご使用前にご熟読いただき、安全な範囲にてご利用下さい。また、右ご利用範囲外でのご使用は補償対象外となりますので、予めご了承下さい。

オプティクリーンとは？

光学面に付着した微小な汚れを有機系ポリマーが取り込み排除する新発想の光学クリーナーです。CCDなどの受像面・エンハンスドメッキ鏡・マルチコートレンズ・フィルター・プリズムなどの汚れを強固に取り除くことができ、**(表面剥離が起こる場合があります。右の項をご使用前にご確認下さい！)**塗布表面に投与しますと時間の経過とともに、表面から薄い皮膜を形成します。この際、乾燥化するにつれ、表面にある汚れなどを取り囲みますのでこの皮膜を取り除くことでほとんどの汚れ、ほこりなどが合わせて除去され、見違えるほどきれいになります。

人体への安全性

揮発性のメタノール系溶剤(可燃性)を使用しています。使用中は通気するなど換気を良くし、火気厳禁のうえ、作業時間が短くなるようにご配慮下さい。溶剤を大量に吸入すると各種疾患の原因となります。肌に付着した場合は石鹸等で水洗して下さい。有機溶剤に過敏な方はアレルギー疾患のもとになりますのでご使用を中止して下さい。使用中本品が眼や口に混入した場合は、大量の流水で洗浄し、速やかに医師の診断をあおいで下さい。また、あまり長時間の間、直接素肌等にあてられないようにご注意下さい。尚、塗布の際、指先などに溶剤が付着しますので、作業が終わりましてなるべく速やかに石鹸等で水洗いして下さい。

当品は効果的に汚れ等を除去しますが、その効果が強力であるがゆえに光学面の剥離などの事故も発生し得た経緯もございます。例えば右記記載範囲でのご利用でもございません。弊社では製品の性質上、誠に残念ながら**完全なる安全性は保証できません。**この点につきましては、充分に留意の上、お客様の判断のもとで当品をご使用下さい。

ステップ2



ご利用頂けない場合



光学製品に対する安全性と補償範囲

本製品は徹底的にテストされ、光学クリーナーとして非常に効果的な製品で、光学面の付着物を強力に除去でき、基本的にはコーティングやメッキに安全ですが、その半面、**著しく蒸着力が低下したメッキやコーティングなどでは皮膜と合わせてこれらが剥離する(はがしてしまう)危険性が多様にご覧いただけます。**また、可燃性蒸気を発生する溶剤となっており、**樹脂系光学製品を溶かしたり、塗装面などを変性させたりすることもございます。**万が一、本品使用により直接あるいは間接的に生じたコーティングやメッキの剥れ、その他の損害がおきてしまった場合は、弊社は一切の責任を負いかねます。

剥離の可能性がある光学面と留意点

- | | |
|--------------------------------------|------------------|
| 数年以前にメッキされた反射鏡 | 古い、もしくは劣化したメッキ面 |
| シリコンコート無しのメッキ面 | 低温蒸着など簡易メッキ面 |
| シュミ・カセの補正板 | 非マルチコート光学面 |
| プラスチック(樹脂)光学面 | ドブソニアン用等の安価な光学製品 |
| 光学面以外には絶対使用不可・付着厳禁(特に配線・基板等) | |
| セル・ネジのすきま、内外塗装面、グリス、火気・熱源などの近くでは使用厳禁 | |

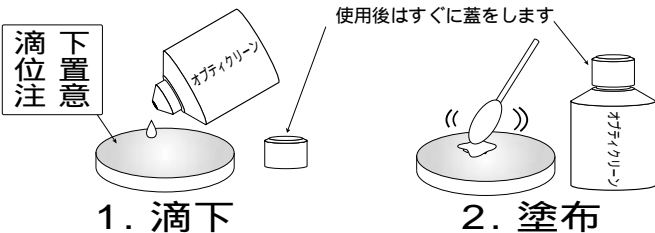
使用可能かどうかの確認は...

近年のシリコンオーバーコートされているエンハンスドアルミメッキ、多層マルチコート等では現在までに剥離等の事故報告は確認されていませんが、事故を未然に防ぐためにも各メーカーの技術者等にご相談されることをお勧め致します。

弊社補償条件等にご承諾いただけない場合は、残念ですが開封・使用をおやめ下さい。

ステップ3

オプティクリーンの使用方法



1. 滴下

光学面が平らになるように置き、溶剤を少しづつ滴下します。塗布不要場所に本品が付着しないよう注意し、塗布面が小さい場合には溶剤を別の場所へ一旦滴下し、先の柔らかいもの(綿棒等)を使用して塗布下さい。

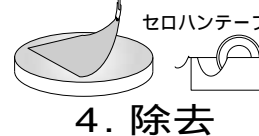
2. 塗布

綿棒などで適度な厚みを持たせて本品を塗布します。この時、綿棒等が光学面に直接接触れないようにレンズ面との間に充分溶剤を満たした状態で広げていきます。塗布厚は薄過ぎるとはがれません。



3. 乾燥

30分程度安全に放置し、溶剤を充分に乾燥させます。形成された被膜表面の粘性がなくなっていれば結構です。オプティクリーンは揮発性です。充分な換気を行って下さい。蒸気吸入は大変危険です。



4. 除去

セロハンテープ等を用いて被膜表面をすくい上げ、ゆっくりと全体をはがして下さい。(注:セロハンテープを直接光学表面に付けないように注意して下さい)。切れ端が残留した場合は、被膜に息を吹きかけたり、アルコール等で溶解除去します。

「ご利用前のご確認」・「ご利用できない場合」を理解していただけたか? 未然に事故を防止するために、これらの項目をご熟読下さい。

国際光器よりユーザーの皆さまへ

1989年本品の発売当初、ごく安価なドブソニアンミラーの一部でメッキはがれが発生してしまいました。安価を追求したが上でのメッキ前の洗浄不良やメッキ不良が原因でした。しかし、最近の光学機器は品質も向上しこのような不幸な事故は報告されていませんが、現在でも鏡面の劣化などで剥離の可能性がある光学製品も多数存在すると考えられます。このような**光学製品には本品の使用を避けて下さい。**本品は光学製品の高精度化が進むなか業界の必需品となってきており、プロの方をはじめ、高精度レンズやデジタル受像面のよりハイレベルの清掃に大いに貢献しております。今後本品の需要は増えていくと予想されますので、**不明な点等がございましたら、実際にご使用なされる前にお気軽に弊社までご連絡下さい。**弊社は常にお客様と一緒に商品を愛し、育てていきたいと考えています。
E-mail: kkoiki@kkoiki.com Tel.075-394-2625, Fax.394-2612

トラブルシューティング(テクニック)

- 頑固な汚れなどは市販のアルコールを用いて事前にクリーニングしておいてください。(カビなどは除去できません。)
- 乾いたオプティクリーン膜が剥がしにくい場合は、皮膜に端2-3回息を吐きかけてから引っ張り上げます。
- セル等のすきまに本品が浸透した場合は、慎重にアルコール等を使用して被膜を再溶解して下さい。ただし、この時グリス類も同時に溶解されてしまう恐れがありますので、なるべく本品が浸透・拡散しないように注意してご使用下さい。
- 実際の塗布時には一度に全面ではなく、極小部分の投与でお願い致します。また、鏡に関しましては部分的に(斜鏡の陰になる中心部がお勧めです。)試しに塗布ください。
- 実際の塗布は効率良くご作業下さい。この際あまり時間をかけて作業されますと乾燥率の異なる皮膜同士が重なり、大変はがしにくくなります。ご注意下さい。
- 皮膜が完全に除去されない、あるいは途中で破れ始めた場合は新たに塗布を行なって頂くか、市販のアルコールでふき取って下さい。残った古い皮膜は、再び溶剤で溶解可能です。